

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4083700013
法人名	(有)福岡医療研究所
事業所名	グループホーム やさしい時間 (ユニット名 かりん )
所在地	福岡県筑紫郡那珂川町後野4丁目10-5
自己評価作成日	平成23年2月22日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然の中で穏やかな生活ができるよう、車イスの方でもできることは自分で行えるよう配慮しています。・定期的に訪問歯科の診察を受け、口腔内の清潔を保ちながら食事ができるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年3月22日

歴史を感じさせる古い神社、公民館、田んぼ等がすぐ近くにあり、ホームは自然が多いのどかな環境のなかに位置している。管理者は利用者がこれまで暮らしていた環境に少しでも近づけたいという思いから、現在の場所に木材を多用したホームを5年前に建設している。同じ敷地内にあるデイサービスセンターとは、餅つきや夏祭りなどの行事を合同で行っている。ホーム設置者は歯科技工士であり、「健康は口腔内の清潔から」との強い思いを持っている。食後はもちろん、夜間は義歯を預って超音波で消毒し、できるだけ自分の歯で噛むことができるようにということで、口腔ケアには力を入れている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念が有り、その理念を基に実践につなげるよう努力している。	「なじみのある地域のなかで、ゆっくり・ゆったり・穏やかに」という親しみやすい理念を作っている。職員は理念をいつも頭の隅に置き、忙しい毎日の業務のなかでも、ゆったり、穏やかに接するように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで行っている行事・催事への参加の呼びかけ、また、地域への行事への参加、多世代交流(幼稚園児)等を行っている。	地域の夏祭りや盆踊り、運動会には特別に席を設けてもらい参加している。また、ホームで行う夏祭り、バザー、敬老会、文化祭には多くの地域住民の参加があり、交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事等にお誘いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域、行政、家族の皆様の参加を頂、ホームの状況を報告しアドバイスを頂、ホームの運営に生かしています。	地域包括支援センター職員、特別養護老人ホーム職員、家族代表、利用者の出席で開催している。1年前、区長(自治会長)が交代した。新しい区長には会議の案内は出しているが出席は得られていない。	地域密着が大前提であるホームの現状から地域の代表である区長、老人会長、公民館長、民生委員等にホームの存在意義を根気強く説明して、運営推進会議への出席を働きかけていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	様々なアドバイスを頂いたり、相談など協力関係を構築している。	地域包括支援センターからは入居者の紹介を得たり、困難事例等のアドバイスを受けている。生活保護等に関しても区役所の担当者とは相談・連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が意識しており、スタッフ会議において、再確認しております。	転倒の可能性のある利用者についてはベッドのサイドレールに鈴を付けたり、センサーマットを利用している。2年前に利用者が独りで外出し、遠方で保護される事が2回ほど重なったため、玄関は常時施錠している。	リビングから玄関は見通しが良く、誰かが外に出た場合はわかるような設計になっている。現在、利用者は落ち着いた状態にあるので、日中の玄関開錠について今一度の検討と改善への取り組みについて話し合う機会をもつことが望まれる。。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様一人ひとりの対応を工夫し、注意を払い防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会、研修会等に出向き、知識と理解を深めております。	75歳から103歳の利用者が生活をしているホームでは、現在1名の利用者が成年後見制度を利用しているが、職員は制度について理解をしている状況ではない。	行政等からパンフレットを取り寄せて内部研修を開催する等、制度について全職員が理解を深め、さらに、制度が必要な家族にいつでも情報提供できる態勢を整えることを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書を事前に渡し、理解して頂き、再度契約時に説明し、両者の理解の違いや疑問点等を再度に渡り説明し、理解と納得を図る。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時に家族の方々の意見を伺ったり、面会時に伺ったりし運営や入居者様に反映させている。 毎月、家族宛に利用者の様子等を通信にて報告しています。	ホームで行う行事には家族に案内状を出し、出席した家族から率直な意見や要望を聞き、運営に反映させている。管理者はこれまで、家族はお客様という意識でいたが、今後は、利用者・家族参加型の行事に取り組みたいと考えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等は、ユニット長を通し提案している。	月に1回開く会議は職員が交代で司会進行を行っており、話しやすい雰囲気である。ユニット長を経由して管理者に提案された職員の意見は実行できるものは運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職手当、資格手当等で給与に上乗せしている。 又、原則残業はしないよう、スタッフには伝えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員個人の個性と能力をそれぞれの分野で発揮できるよう、活動の場と役割などを与えている。	職員の採用に当っては、笑顔やその人の持っている雰囲気等の第一印象を重視しており、性別や年齢等を理由に採用対象から除外する事はない。職員はお菓子作り、リビングの飾りつけ、音楽等々、得意な事を活かしながら仕事をしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	対応、言葉遣いなどでの入居者への配慮などを、代表者、管理者は職員への直接又は、会議などで取り組んでいる。	トイレ誘導時には他の利用者に気づかれないように耳もとで話しかけ、さりげなく誘導している。利用者に接するときは、相手の気持ちになって行動するなど、利用者の人権を尊重するよう管理者は指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部であっている研修案内に対し、受けさせたい人がいればこちらから受けるよう促している。 又、スタッフ会議のときに勉強会を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのブロック会などで、文化祭などを行い交流を図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に安心していただける雰囲気作りや、話を良く聴けるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼していただける雰囲気、安心していただける雰囲気、対応作りに心がけ、身体状況、精神状況を良く聴き取るよう心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の相談はご家族でも、必ずご本人と一緒に来訪していただき、ご本人の特徴を捉えるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活一般において入居者が出来ることは、職員と一緒にやっている。(掃除、洗濯、食事の仕度)入居者の昔話を聴く。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が出来る支援はケアプランに位置づけ、本人が入居していても共に支援できる関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	写真、物、馴染みの人や場所の提供、お話を傾けている。	正月には地域の氏神様に初詣をしている。利用者の希望で、よく利用していたスーパーに買物に行くこともある。また、散歩に出ると地域の顔馴染みの方と立ち止まってよく話している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや散歩、体操を実施(毎日)		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設、病院に入所入院の際は、お見舞いに伺い、亡くなられた方の初盆参りまでは実施してます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	インテーク時、ケアプラン更新毎に希望や意見を本人に伺っています。	利用者と日々関わる中で、本人の希望や意向に耳を傾けている。自分の思いを表現しない方については、表情やしぐさで思いを汲み取っている。また、家族からの聞き取りからも把握するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、総合的な把握に努めている。 説教的に実施しています。 掃除、生け花、料理、折り紙、縫い物など。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一方的にならないように、できることは習慣づけて、継続していただけるよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会に来られないご家族には電話で、面会があるご家族には面会時に聞き取り、3ヶ月に1度、必要時には担当者会議を開催し意見を聞き取りしている。	利用者本人や家族の希望を聞き、担当職員をはじめ関係者一同で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月ごとに見直しを行い、また、変化があった場合は現状に応じた介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	グループホームならではのケアプラン作りを心がけ、多様なサービスを組み、ケアプランは介護保険に使用しているファイルに閉じ、いつでも直ぐに確認できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月、ご家族へのお便りに(通信)ご本人の写真を掲載したり、レクリエーションの様子や、報告を細かく通信にて報告しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア様を利用させていただいてます。 消防、避難訓練、レクリエーション等		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人及びご家族の希望するかかりつけ医を伺っている。 月2回の内科、歯科往診等実施。	入居時に本人及び家族とかかりつけ医について話し合っている。その結果、ほとんどの方が入居後のかかりつけ医にホームの協力医を希望している。内科及び歯科の協力医は毎週1回どちらかのユニットに往診しているため、必要があればどちらの利用者も受診できる体制にある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	オーナーが看護師であるため協力している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを必ず提供してしています。 こちらが待てる時間を伝え、1～2週間毎に病院スタッフと連絡を取っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点でどのような最期を迎えたいかアンケートを取り、それにのっとって病院に伝えている。	入居時に重度化や終末期について本人及び家族の思いを聞いている。医療行為が必要になった場合は基本的には退去としているが、老衰等で自然な形での看取りは、状況に応じて家族と話し合いながらできる限り支援する方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を受けている。(消防が行う救命講習) 必要時はスタッフ会議内で勉強会として行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。(年2～3回) 必ず全職員が参加できるよう、シフトを組んでいる。	災害時の組織図と手順書を作成し、近くの公民館を避難場所としている。避難訓練は年2回を行っており、そのうち1回は消防署員の指導のもと実施している。また、夜間を想定しての訓練も行っている。昨年、天井の外見を損なわないよう配線に配慮してスプリングクレーを設置した。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの大きさ、頻度、言葉遣いに気をつけている。 介助、支援の方法等にも配慮している。	難聴の利用者に対して、聞こえる方の耳のそばで適切な大きさの声で話しかけるようにしている。朝食時間は一応決めているが、一度声をかけ、もう少し寝ていたいという方については、無理に起こさず、起きた時間に合わせて朝食を提供している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを表現できるよう、ストレスをためないよう心配りをしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日等は、基本的には職員が決めるが、入居者の意見も外伺い施している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問理容を利用しています。 行事の日にはいっちょうらを一緒に準備し化粧を行っています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備(もやしのひげ取り、豆むき等)、片付け、おやつ調理等を一緒に実施しています。	利用者のできることが限られてきているが、おしぼりたたみ、調理の下ごしらえ、食器拭き等、職員と一緒にしている。また、ぜんざい、みたらし団子等のおやつ作りは利用者の楽しい作業になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取がうまくいかない方は、職員の工夫でゼリーや寒天等と創意工夫をしています。1日の摂取量の記録等、努めています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施したかをチェック表に記入しています。月に2回しか往診を受けています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を作成し、時間をみて声かけ、トイレに誘導している。	おむつを使用していた利用者がリハビリパンツとパットに、その後、布パンツとパットで過せるようになる等、トイレでの排泄に向けて一人ひとりにあわせた支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量のチェック、食物繊維の多い野菜の摂取に心がけています。ケアビクス体操を実施しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はご本人の意思と職員とで決めて実施しています。	本人が希望すれば毎日入浴できるが、現在は週2～3回入浴支援している。入浴回数が少ない利用者については、時間帯や声かけをする職員を代える等の工夫をして対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前には早めに居室の空調を整え保温に気をつけています。就寝前には穏やかに過ごしていただけるよう努めています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアマネ、職員は入居者全員の薬を把握しています。薬局との連携が十分出来ており、不明時には訪問や電話対応をしてもらっています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人のに応じ喫煙等にも応じています。 生活リハビリとして実施しています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天気により散歩や買い物年2~3回の遠出、公民館に行ったりと外出し気分転換したり地域の人に逢ったりしています。	弁当持参で梅や桜、こすもす等、季節の花見を行っている。天気の良い日に行う玄関先でのバーベキューやそうめんなども好評である。今後は月に1回程度のドライブを兼ねた外食を計画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は少額だが実施しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのお話はあり、ご本人も楽しそうにお話されています。 季節の手紙等もご自分で書いていただいています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下、ホールにはポスターや季節に応じた装飾を施し、玄関には活け花、洗面所には季節の花を飾っています。	木目を多用した明るいリビングには、テーブルとソファを適度な間隔で配置している。たたみ敷きのコーナーには家庭を思わせるような立派な家具が置かれ、利用者がゆったりと過せる空間になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間の工夫と各個人の居場所の確保は出来ています。ユニット間の出入りも自由に行えます。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、馴染みの物をご本人やご家族に持参していただけるよう依頼しています。	ベッド、タンス、寝具はホームの備品であるが、自宅で使い慣れた椅子、大きなタンス、衣類、仏壇、表彰状、家族の写真、趣味の小物等が持ち込まれている。居心地よく過ごせるように、各部屋はその人なりに整えられている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の特徴を早く捉え、対応をスタッフが統一できるよう配慮しています。		